

困窮学生に10万円給付

補正予算案 文科省、コロナ対策で

文部科学省は26日、新型コロナウイルスの影響で経済的に困窮する学生を対象に1人あたり10万円の緊急給付金を支給する方針を決めた。政府が同日に閣議決定した2021年度補正予算案に、関連費用として675億円を計上した。このほか学校現場での感染対策の補助費用も含め、コロナ対応で計約1000億円を投じて教育現場を支援する。

給付金の支給対象は、67万人程度。非課税世帯

コロナ対応に関する文科省の主な補正予算案

困窮学生への緊急給付金	675億円
学校の感染対策支援	331億円
芸術活動の再興支援など	621億円
ワクチン研究開発拠点の整備	515億円

やこれに準ずる低所得世帯の学生向けに20年度から導入された「修学支援制度」の利用者や、制度

を使っていなくても、親からの支援やアルバイトによる収入が大幅に減るなどして生活が苦しい学生などを想定する。通学先の大学などの推薦を受ければ対象に加えるという。

文科省は「できる限り速やかに支給したい」（学生・留学生課）としており、年内から年明け早々の支給を目指す。

新型コロナウイルスの感染「第6波」への懸念が広がるなか、小中高校などでの感染対策を後押しするた

め、331億円を盛り込んだ。消毒液や二酸化炭素濃度の測定器などの購入費のほか、消毒業務の委託にかかる経費を補助し、学校現場での感染リスク低減につなげる。

このほか、コロナ禍で自粛や規模縮小を余儀なくされた展览会や公演といった文化芸術活動を支えるための補助費などとして621億円を計上。国産ワクチンの実現に向けた世界トップレベルの研究開発拠点として大学などの設備を整備するため515億円を充てた。

文科省の補正予算案はコロナ対策以外の項目も含め、計約1兆5千億円となった。